

「知事との元気まるごとトーク」(令和2年9月14日開催)

「知事との元気まるごとトーク」は、知事と地域で元気に活動している団体等の皆さんが、青森県の未来を創るために直接意見交換をする場です。

令和2年度2回目の「知事との元気まるごとトーク」を令和2年9月14日(月)に「長根屋内スケート場(YSアリーナ八戸)」(八戸市)で開催しました。

当日は、三八地域県民局管内の4名の方にお集まりいただき、「スポーツツーリズムによる地域づくり」をテーマに意見交換を行いました。

当日の概要をお知らせします。

当日の出席者

株式会社ヴァンラーレ八戸	取締役 事業統括本部長	菅原 康平さん
東北アイスホッケークラブ株式会社 (東北フリーブレイズ)	事業部門長	坂下 光さん
青森県アイスホッケー連盟	常任理事 強化普及委員長	澤口 誠介さん
一般財団法人 VISIT はちのへ	専務理事	在家 秀則さん

(知事)



皆さん、こんにちは。

今日は「スポーツツーリズムによる地域づくり」をテーマに設定しました。

八戸圏域は、産業都市としても元気ですが、蕪島、みちのく潮風トレイル、階上岳などの観光資源を生かした広域観光や東京にオープンしたアンテナショップなど、様々な取組を八戸市と周辺市町村が一緒に行っています。

昔は、当地域のスポーツと言えば主に野球、アイスホッケー、スピードスケートでしたが、現在はサッカー、アイスホッケー、バスケットのプロチームがあり、様々なスポーツを楽しめる環境になってきました。それに伴って、特に若い世代がスポーツを楽しむために当地域に来ているほか、研修や合宿などを含め、スポーツに関わる新しい旅の形が生まれていることは非常に重要だと考えています。

現在、新型コロナウイルスの影響で観光客は大きく減り、600%伸ばしたインバウンドのお客様もほぼなくなってしまいました。

しかし、経済を動かしていくために、地産地消、地域内観光から始まり、次は近県の観光となり、それから本県のように比較的来やすいところに修学旅行生等が来てくれるようになりまし。今までとは違うやり方をしなくてははいけません。人が集まるようになり、今後は、GoTo

トラベルキャンペーンの東京都除外の解除や、プロスポーツの試合での人数制限緩和など、徐々にいろいろなことができるようになってきています。

ここはまた、ウィズコロナ、そしてアフターコロナに向かって力を合わせて乗り越えていくということで、スポーツツーリズムのあり方や、皆でやっぺいこうというアイデアなど、元気の出る話をしてもらえればと思います。

(三八地域県民局長)

今回の意見交換のテーマである「スポーツツーリズムによる地域づくり」の選定趣旨を説明します。

八戸市は昭和 22 年に第 1 回国民体育大会冬季大会のスケート競技会が開催された地で、以来、氷都八戸と称されるようになりました。現在、三八地域はスケートやアイスホッケーをはじめ、サッカー、バスケットボール、野球なども盛んな地域であるとともに、これらのプロスポーツチームも複数あり、試合のたびに県内外から多くの観客が訪れています。



また、本日の会場である長根屋内スケート場 Y S アリーナ八戸や、今年 4 月にオープンした東北フリーブレイズの本拠地フラット八戸、また昨日、冷たい雨雲を吹き飛ばすようなヴァンラーレ八戸の熱い戦いが繰り広げられた多賀多目的運動場プライフーズスタジアムなど、スポーツ施設も充実し、これまで以上にスポーツに親しめる環境が整ってきました。

そこで三八地域のスポーツ資源を生かし、「観るスポーツ」「するスポーツ」「支えるスポーツ」としての 3 つを目的に、地域を訪れ、地域資源とスポーツが融合した観光を楽しむスポーツツーリズムを推進することは、スポーツの振興はもちろんのこと、地域の活性化、産業の振興、国際交流の推進など、幅広い関連産業の活性化にもつながる可能性があると考え、今回の意見交換のテーマとしました。

本日は皆さんの団体の活動を紹介してもらおうとともに、今後の三八地域のスポーツツーリズムのあり方について話し合い、三八地域のみならず県全体のスポーツツーリズムの振興に寄与する機会となれば、企画する側としては望外の喜びです。どうぞよろしくお願ひします。

(菅原康平氏)



私は、北海道の恵庭市という、千歳空港と札幌市のちょうど真ん中で生まれ、ずっとサッカーをやってきて、大学を卒業してヴァンラーレの選手として 2011 年に入団しました。氷都八戸というだけあってホッケーが盛んで、サッカーって何？というような頃から選手としてプレイしてきて、今はスタッフとして働いています。

去年から、皆さんご存知のとおり J リーグで活動をするようになりました。本当に今まで夢見ていた舞台に立って運営して、まだまだ足りないですが、地域に大きな影響を残せたかなと感じた 1 年でした。

今年、さらに飛躍をしようと思ったら、新型コロナウイルスで見事にゼロという形になっていますが、ヴァンラーレは県南 16 の自治体を中心に、ホームタウン活動として、幼稚園や保育園でのサッカーやスポーツの普及に携わったり、八戸市を中心に行政のイベントや町内会加入促進キャンペーンのお手伝いをしたり、警察の広報大使として選手が参加したりしています。また、小学校、中学校、高校の授業で、普段サッカーに関わりのない子どもたちと一緒にサッカーをして体を動かす楽しさを伝えたり、夢を持つことの大切さの講話を行ったりと、少しずつやらせてもらっています。このほか、農業支援活動として、にんにくを作っていて、去年サポーターの皆さんと種を植えて、今年一緒に収穫する予定だったのですが、こういった状況なのでひっそりと収穫をしました。こうした取組は、定期的にやっていきたいと思っています。これらのうち、サッカースクールは 1 年で約 300 回、ほぼ毎日行っています。

我々がこのホームタウン活動を大事にしている理由は、私が入った時の状況も影響しています。最初に私が入った頃、サポーターの数が 1 人の試合もありました。もちろんサッカーでの勝ち・負けがフォーカスされるのは当然ですが、やはり地域に愛されて何ぼというのはこの頃から分かっていたので、年々、少しずつですがサポーターの数、我々を知っている人の数を増やしてきました。ヴァンラーレって何？と言われるところから始まったんですが、おかげさまで素晴らしいスタジアムも造ってもらい、少しずつお客さんが増えて、昇格を決めて、たくさんの方に応援してもらえるようになりました。

ホームゲームの入場者数も右肩上がり、今はいろいろあって数字は少し減りましたが、2011 年の 1 人から始まっている割には伸びたという印象です。

応援してくれる地元のパートナー企業も、当地域は工業分野で有力な企業がたくさんあり、そうした企業の支援もあって、2013 年は約 50 社でしたが、去年は 400 社近くまで増えました。もちろん、ここ八戸が 8 割 5 分から 9 割ぐらいですが、東京の企業や、去年は沖縄やベトナムの企業からも支援してもらうことになるなど、少しずつ伸びてきています。

2015 年に、もし 2017 年に J3 に昇格したらという前提で経済効果を試算したら約 5 億円という結果が出ましたが、去年、実際に J3 に上がった時に算定したら、県南に 10.5 億円の経済効果があったという結果が出ました。対戦相手のサポーターの皆さんが移動に交通機関を使い、ゲーム終了後に八食センターやみろく横丁で飲んで、うちのサポーターと会うという話をよく聞きますので、そういう意味で地域のためにサッカーを通じて効果を出せたかなというのが去年の実感でした。今年にはさらにやる気満々だったのですが、こればかりは仕方ありません。

J リーグには、スポーツ文化の振興と国民の心身の健全な発達への寄与、という理念があり、我々もそれに賛同し、地域とともにクラブと一緒に成長していくという考えをベースにしています。コロナ禍でも、どれだけ地域を盛り上げて、以前よりも良いものにできるか、皆さんの意見を聞きながら、取り組んでいきたいと思っています。

(三八地域県民局長)

菅原さんから地域を大切にするという話がありました。本日は地元スポーツチームを支援する八戸スポーツ振興協議会を所管している八戸市も出席していますので、協議会の取組について紹介をお願いします。

(八戸市)

八戸市スポーツ振興協議会は、地域スポーツの振興を図りながら、その成長産業化を促進することを目的に、産学官による連携の下、平成 21 年 10 月に創設し、支援対象チームは、東北フリーブレイズ、ヴァンラーレ八戸 F C、青森ワッツ、3x3 (スリーエックススリー (スリーバイスリー)) の HACHINOHE DIME です。

主な取組としては、まずチームのファン、サポーターの増加を図るために、年間 1 試合だけではなく、来場者にチームグッズをプレゼントするホームゲームの日を設けています。

また、東北フリーブレイズのファンが青森ワッツやヴァンラーレ八戸のホームゲームを観戦するなど、相互にファンになってもらうきっかけづくりのための 3 チーム応援スタンプラリーも実施しています。

さらに今年は、ヴァンラーレ八戸の土・日・祝日のホーム戦に合わせて八戸駅、そして八戸市庁からシャトルバスを運行して、サポーターの皆さんの利便性向上を図っています。

あと、市内中心街への応援フラッグの掲示、八戸ポータルミュージアムはっちでの情報発信ブースの設置、八戸マチニワでの 203 型大型ビジョンによるチーム PR 動画の放映などの取組によって、市民の皆さんだけではなく市内を訪れる全ての皆さんに対してもチームへの愛着の創出と更なる深化に取り組んでいます。

(知事)

菅原さんは本当にサッカーが好きですね。もちろん選手も大事ですが、それを支える人が一番重要で、営業から運営までプロチームを回していくために必要なことを全部引き受けてやっていて、すごいと思います。

環境政策課と一緒に「COOL CHOICE あおもり」に取り組んでもらい、低迷している本県の 1 人 1 日当たりのごみ排出量、あるいはリサイクル率などの対策への協力に感謝します。

また、子どもたちが体を動かす場を作ってくれていますが、本県は子どもの肥満の割合が高く、子どもたちがスポーツに親しみ、体を動かすことは、本県の健康づくりにも役立ちます。

(環境政策課)

県では、地球温暖化対策として「COOL CHOICE あおもり」を合言葉に環境にやさしい賢い選択をする人を増やす取組を行っています。ヴァンラーレ八戸の皆さんには平成 30 年度から 2 年間、「COOL CHOICE あおもり」の応援大使に就任してもらい、選手が PR 動画やリーフレットなどに出演し、マイバッグの利用やスマートムーブなど環境に優しい取組を直接 PR したことで、子どもから大人まで幅広い層に普及啓発できたと考えています。

昨年度、プライフーズスタジアムでのホームゲームでキャンペーンなどに協力してもらい感謝しています。実は今年も来月 11 日、ホームゲームで、ファンの方々は車で来る方が多いので、ぜひ環境に優しい運転、スマートムーブで会場に来てもらおうという県の取組に協力してもらう予定です。

このようにスポーツチームの魅力と引力を生かして、地球温暖化対策のみならず様々な分野で協力してもらっていますが、引き続きよろしくお願いします。

(スポーツ健康課)

先ほど発表された取組は、スポーツを通じた世代交流や地域の活性化に資する大変意義のある取組だと考えています。

県でも、子どもの健康づくり、小学校における楽しい体育の実現に向けた研修会の開催、スポーツ活動、運動部活動の充実を図るための事業、それから総合型地域スポーツクラブの普及・育成に取り組むなど、県民が年間を通じてスポーツに親しむことができる環境づくりや県民の健康づくりに取り組んでいます。

ちなみに総合型地域スポーツクラブは、現在、県内 31 市町村に 39 クラブが設立されて活動をしています。ヴァンラーレ八戸もヴァンラーレ八戸スポーツクラブを運営し、サッカーやスイミング、テニスの教室を開催していると聞いています。

県としては、今後、関係機関や団体等と連携を図り、県民が生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できるよう、スポーツに親しむ環境づくりの充実を図るなど、スポーツの推進に努めていきますので、協力をよろしくお願いいたします。

(知事)

スポーツツーリズムの話から少し外れますが、いわゆるU I J ターンで若い人、特に進学した若い人に青森県に帰ってきてほしいと思って、いろんな大学等と連携をしていますが、その中でスポーツや地域イベントのプロフェッショナルを育てている学校があって、「八戸に絶対に帰ってきます」という学生がいました。菅原さんや八戸市の取組もあり、スポーツで盛り上がっている八戸というイメージの向上につながっていて、選手にはなれないにしても、地元に戻って菅原さんのように支える側の活動をしていきたいという人が出るなど、いい流れをつくっていると思います。

(三八地域県民局長)

三八地域では若者の定着に向けて、八戸市や大学や地域県民局が連携したいろんな取組を進めています。今後とも、スポーツを生かして地域とつながる活動をよろしくお願いいたします。

(坂下光氏)

私も、菅原さんと一緒に、青森とは全くゆかりがなく宮崎県出身です。東北フリーブレイズはゼビオグループ傘下のアイスホッケーチームで、もともとはゼビオの店舗に入社し、店舗で働いていましたが、2014 年から今 J 2 の東京ヴェルディに出向し 3 年くらい営業やホームタウンの担当をして、2017 年から上司の一声で八戸に異動になりました。私も実はサッカーをやっていて、本当にこっちに来るまではアイスホッケーは全く知りませんでした。



チームの歴史を見ると、ゼビオの本社が郡山にありましたので、福島県の X-united 所属選手に加え、参加選手を募り、2008 年 10 月にチームが発足しました。

2010 年から、いわゆるアジアリーグに参入しましたが、今は 2 年連続最下位で、昨年に関し

ては4勝しかできず、ここ数年かなり厳しい結果が出ています。今年が12年目で、日本の中ではまだまだ若いチームです。

ホームタウンは八戸市と郡山市で、郡山市でも毎年1シリーズは試合を行っています。

今年4月にフラット八戸という通年型のアイスホッケーリンクがオープンし、日本トップクラスのアイスホッケーを観る環境ができたのではないかと考えています。新型コロナウイルスの影響で予定していた様々なイベントは中止になりましたが、9月末の我々のプレシーズンマッチから、いよいよ本格的に稼働していくことになります。

アジアリーグは、日本国内のチームのほか、ロシアや韓国のチームなど、ほかではなかなか見られない日韓露の融合リーグで試合を開催しています。新型コロナウイルスの影響で、韓国、ロシアでの海外渡航の制限が続いていますので、今年は10月から、まずはジャパンカップという形で開催する予定となっています。

フリーブレイズはサッカーと同じく、日本におけるアイスホッケーの普及、子どもたちの夢創出、あとはこの八戸から東北を盛り上げることを目指して活動を行っています。現在、ジュニアスクールも定期的に開催していて、下は幼稚園、保育園の年中からを対象にしています。ジュニアスクールの一番の特徴は、プロの選手がスクールに参加して重点的に開催していることです。プロから教わる回数はほかから比べると圧倒的に少ないので、幅広い世代を通してスクール活動を行っています。

アイスホッケーの現状では小学校の部活動で女子の試合があまりできないため、昨年、フリーブレイズの女子チームを新しく立ち上げました。昨年行われた東北予選で優勝し、全日本選手権に出場しました。

我々のチームの一番の特徴は、会社の中に選手部門の組織が作られていることです。アイスホッケーの普及、それからファンの獲得に向けて、選手自らがシーズン中にも関わらず社会貢献活動やグッズの制作、広報活動を行っています。企業の社会的活動をCSR活動と言いますが、我々はチームで活動をするのでTSR活動という形で、年間、様々な幼稚園、保育園に出向いています。いきなりスケートを滑ったり、アイスホッケーをしたりするのは難しいので、体を動かすところから取り組んでいます。

シーズン中にも選手がグッズのデザインをして、自ら発注するという、ほかのアイスホッケーチームではやっていない活動をチームとして行っています。

選手がInstagramのアカウントを持ち、アイスホッケーのみならずオフアイスの場合も含めて様々なイベント情報を発信しています。というのは、やはり僕がファンの方に言うのと、選手が直接言うのでは全然伝わり方が違ってきますので、選手の方で広報活動を重点的にやっているところです。また、フリーブレイズは八戸市のPR大使になっており、様々な地域のイベント活動を積極的に行っています。

最後に、我々は青森市からの誘客にも取り組みたいと思っています。八戸市は授業でスケート教室があるなどスケートの人気が高いですが、青森市はスケートよりもスキーの文化なので、青森市からのファンの獲得や誘客が難しいと思っています。

(知事)

当地域はアイスホッケーがものすごく盛んで、私の同級生でもやっている人が多くいました。そこに、坂下さんが社命とはいえ八戸に来てくれたことをうれしく思います。それから会社が

選手部門を持っていることについても、選手にしてみれば安心なことだし、地域貢献をしてもらっていて頼もしいです。

本県はすそ野から選手が育ってきているし、女子チームもありますが、フラット八戸ができたことで、ますますアイスホッケー人口が増えていくと思います。

青森市にもアイスホッケーをしている人は結構いるので、もっと青森市からの誘客に取り組んでもいいと思っています。フラット八戸が八戸駅近くにできたおかげで行き来しやすくなりましたが、再来年には天間林道路ができて、さらに往来が便利になってくると思いますし、いろんな意味でチャンスがあるので、本当にこれから期待できると思います。

また、先ほど会社の仕組み等を見て、明らかにアイスホッケーを一つの産業、文化として、一緒にこの東北を盛り上げるものとして扱ってくれていることをとてもうれしく思います。

(観光企画課)

県では、新型コロナウイルスが全国的に拡大し、県をまたぐ移動も制限されていた中で、観光需要を戻そうと検討をしてきました。

観光誘客によって外貨獲得を進めていく取組をしていますが、コロナ禍の中で、改めてお互いの地域に関心を持って県内の観光需要を高めていくことも重要だと思っています。そのためには、やはり感染防止対策と社会経済活動を両立させていくことが大事で、県では感染対策を行っている観光施設などに対して、自らそのことを宣言してもらい、その施設を登録するという制度を創り、県内外に向けて安全・安心であるというイメージを普及させようと取り組んでいます。

また県内の観光需要を喚起するために、7月から「あおもり宿泊キャンペーン」を実施して、今、5万人泊分を用意してしまして、そのうち8割は販売を完了しています。

このキャンペーンは、受け入れる側にとっては宿泊施設を中心として新たな滞在プランを生み出し、地域の魅力を引き出すきっかけになっていて、また利用する県民の皆さんにとっても、県内の各地域の良さを再発見する機会になり、持続的な観光振興につながる意義深い取組であると考えています。

県としては、こうした取組を通じて、県民の皆さんに県内、域内の観光に興味・関心を持ってもらえるよう、地域の皆さんも住んでいる地域、いろんな取組、魅力に気づいて、自信や誇り、愛着を持って地域の魅力を高めてもらい、そして県内でお互いの魅力を認め合って県内、域内の観光需要につなげていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(八戸市)

八戸市では、まだ議会の議決を経っていませんが、4つのプロスポーツチームのプレミアムチケットの販売を予定しています。

また、スポーツによる誘客という点では、県の協力を得て、このYSアリーナが昨年9月にオープンし、今年4月にはフラット八戸もオープンして、環境整備が順調に進んだ効果もあって非常に多くの方が県外から合宿に来ています。11月のフィギュアの全日本ジュニア大会や、12月のアイスホッケーの全日本選手権など多くの大会がありますが、市としては、合宿誘致に関してこれまでの取組よりも更に進化させた新しいアプローチで、県と連携して更なる合宿者の増加に取り組んでいきます。

(知事)

この八戸地域は本当にスポーツツーリズムに力を入れていて、菅原さんも坂下さんも頑張ってくれていますので、それに応えていきたいと思います。

(澤口誠介氏)



今年1月に国民体育大会が地元で行われましたが、アイスホッケーは青年チーム、少年チームとも5位という成績でした。前回の国体の時は優勝し、監督として携わりましたが、今年7月から強化普及委員長という立場になり、また前向きに頑張っていきたいと思います。

私はリンクのある地元、根城小学校、根城中学校から八戸高校に進み、東京の西武鉄道でアイスホッケー選手となった後、30歳の時にUターンして実家の建設業を継いでいますが、仕事以外の時間はアイスホッケーに費やしており、2025年か2026年に行われる国民スポーツ大会に向けて強化活動を進めています。普段は朝4時に起床して、朝5時から小学生の指導をし、日中は通常の勤務をして、夜にはアシスタントコーチとして中学生の指導も少しやっています。そのほか国民体育大会の青年チームのコーチに就いていますので、1月にはその指導も行い、一日中、ホッケーに携わっているような形です。

アイスホッケーは青森県内において県南地域にほぼ競技人口が限定されている競技です。全国大会を見ても、北海道、栃木県を中心に、あと関東などほぼ一部の地域でしか行われておらず、マイナースポーツの域を超えていません。競技人口も人口と共に減少していますが、北米では4大スポーツと言われています。しかし、日本では、男子は長野オリンピック以降オリンピックへの出場すらできていません。女子は世界ランキング5位くらいで、冬のオリンピックの出場が決まっています。

競技がメジャーになっていくためにはオリンピックに出場するぐらいの力がないといけないと思っています。サッカーであればワールドカップ出場が変わってきたと思います。青森県から育った選手たちが全国大会でいい成績をおさめて、アジアリーグの選手にたくさんなり、そして日本代表の選手になって、オリンピックに出場したり世界で羽ばたく選手になったりしてほしいと思って指導をしています。

これ以上競技人口が減ると、競技レベルが低下し、ひいては競技自体が衰退するという危機感を持っています。

競技の発展のためには、トレーニングの強化以外に、アプローチの一つとして、生涯を通じた競技参加者を増やすこと、それが競技の分母を増やしていくことにつながっていると思っています。例えば、生涯スポーツとして市ごとにシニアの大会を開催したり、東北フリーブレイズが行っているように、競技の入口であるジュニアへの広報活動や初心者教室の開催、それから活動をしているクラブチームの紹介など初心者へ間口を広げたりすることで、競技スポーツを離れても趣味として競技とつながり、競技観戦などの形で仲間づくりが行われ、その結果、競技への理解者、協力者が増えてくるのではないかと思います。そういった構造に変換できれば、競技自体が衰退することなく発展していけると考えていますし、スポーツツーリズムにもつながってくるので

はないかと思っています。

そういった中で、いい成績をおさめていくためには、例えばフリーブレイズの選手がリタイアをした時に、青森県出身ではなくても八戸で就職し、一緒に国体に出て指導者として残ったり、国体に出るような県出身の大学生が八戸の就職先を紹介してもらい、一緒に試合に出て、その後は指導者として関わったりすることができればと思っています。

(知事)

朝早くから指導をして、会社の仕事をして、また夕方になれば今度は中学生を指導してということで、澤口さんのような指導者がいてくれるから氷都、特にアイスホッケーが守られてきたと思います。ありがとうございます。

我々も期待に応えて、完全大会として本県で開催される国民スポーツ大会の時に総合優勝するために取り組みたいと思っています。

本県で、強豪チームからスカウトはできないにしても、現役としてやっていける方々のリクルートや、選手を育て、また戻りたいという人たちをどうやっていくかについて、スポーツ健康課から説明します。

(スポーツ健康課)

スポーツ健康課では今後開催予定の第80回国民スポーツ大会（青森国スポ）を見据えて、同大会での天皇杯・皇后杯の獲得を目標に、青森県競技力向上対策本部を設置して本県の競技力の向上に向けた取組を進めています。

アイスホッケー競技を含め、全国的に競技人口の減少が危惧される中、本県で育った選手たちが全国大会、またオリンピック等、世界で羽ばたいてほしいという思いで、対策本部では以前から国体をはじめとする全国大会やオリンピック等の世界大会で活躍するトップレベル選手を本県から輩出することを目指し、「あおもりスポーツアカデミー事業」に取り組んでいます。

この事業は運動能力が高くて優れた小学生、いわゆる各学校で実施している新体力テストA判定の子どもたちを青森県全域から募り、対策本部において独自の運動能力測定を行うことで、更に優れた小学生を「あおもりスポーツアカデミー生」として選抜しています。現在、小学校5年生から中学校3年生まで全部で173名を選抜し、育成をしています。

この中では、幅広く多競技を体験させるというプログラムもあり、澤口さんの話を聞いて、アイスホッケー競技も子どもたちに薦めていってもいいと感じました。

また、こういったアカデミー生も含めて、将来有望な本県のジュニア選手が十分に競技活動ができるように、各競技で活躍が期待できるジュニアクラブや中学、高校、大学、企業などを強化拠点として指定し、青森国スポを目指して活動を支援しています。アイスホッケー競技では、高校のカテゴリーで八戸工業大学第一高等学校アイスホッケー部男子を強化拠点校として指定しています。

本県の選手がオリンピック等の舞台上で活躍することは、多くの県民に夢を与えます。また、活躍した選手が指導者となって、そして次の世代の選手を育成するという姿を目指しています。今後とも競技団体と連携を図りながら取り組んでいきたいと考えています。

最後に、トップレベルで競技を経験した「人財」を確保する環境づくりでは、対策本部において「選手・指導者の雇用環境の充実支援事業」を昨年度から実施しています。この事業は青森国

スポにおいて本県代表として得点獲得が期待できる成年種別のトップレベル選手に対する県内企業等への就職支援を目的として取り組んでいるものです。

具体的には、県内企業と選手等のマッチングを行うために、対策本部の中に無料職業紹介所「ジョブスポあおもり」を設置し、選手の雇用に協力してもらおう企業等の開拓等を行っています。昨年からスタートしたばかりで、現在、約30社を回り、10数社にさっそくエントリーをしてもらいましたが、今後、さらに開拓していく予定です。

このような取組を通して、トップレベル選手が青森国スポ終了後も県内に定着し、本県への社会的貢献のほか、指導者としても本県の競技力向上を担い、持続可能な本県競技スポーツの振興と発展につながるよう、関係団体と連携しながら取り組んでいきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひします。

(在家秀則氏)

私は、小さい頃は野球とスピードスケート、中学校ではスピードスケート一本に絞り、高校でサッカー、大学で弓道、就職してからはサッカーとアイスホッケーをやってきました。

VISIT はちのへの前は八戸コンベンション協会におり、その前は八戸市の職員で、市を退職する直前は区画整理の担当となり、フラット八戸に関わったこともあり、本当にホッケーとサッカーは私から切り離せない状況です。

東北フリーブレイズとヴァンラーレ八戸、この2つの競技が今の八戸のメインスポーツです。ヴァンラーレの試合があった後にフリーブレイズの試合がある場合もあります。

スポーツツーリズムを観光に結び付けるのは我々や八戸市かもしれないですが、知事にはぜひ会場に来て、チームの応援をしてもらいたいというのが私の願ひです。

一つ提案ですが、ヴァンラーレの試合の時はスポーツ振興協議会がバスを八戸駅から出しています。東北フリーブレイズの試合は八戸駅から歩いていけるフラット八戸で行われます。青い森鉄道ではラビナや浅虫水族館と組んだ切符を出していますが、スポーツの試合と切符を組み合わせるのはどうでしょうか。フラット八戸は駐車場もないので、車でなく青い森鉄道で来て、一杯飲みながら応援もできると思ひます。

(知事)

こうして八戸でプロスポーツが盛んになってきましたが、応援してきた民間の方々はずごくうれしひと思ひます。そういう風土をつくってくれた、在家さんや小林市長と力を合せていきたいと思ひています。

青い森鉄道は乗客を増やすのが課題です。現在、土日の乗り放題切符を販売していますが、お互い話し合って、組み合わせで安く試合を見に行けるといふことになれば、実現できると思ひます。

県としても応援できることについて、観光企画課から説明します。



(観光企画課)

VISIT はちのへが八戸圏域の観光誘客、そして物産振興を一体的に推進されていて、非常に心強く感じています。

八戸は、言うまでもなく、種差海岸をはじめとするみちのく潮風トレイルの起点であり、豊かな自然、それから是川縄文館などの歴史、館鼻岸壁の朝市や横丁などの文化、そして八戸前沖さばや八戸せんべい汁などの食、八戸三社大祭やえんぶりなどの祭り、と、多様な地域資源を有しています。

また本日のテーマのスポーツに関してもファンラーレ八戸、東北フリーブレイズなどの観戦機会も多くあり、スポーツ観戦と観光という組み合わせは八戸ならではの強みだと感じています。

県としては、これまで観光客へのアピールとして四季折々の自然環境を生かし、インバウンドを中心に、スキー、トレッキング、ゴルフなどのスポーツアクティビティと観光を組み合わせた誘客促進に取り組んできました。今後もスポーツと観光を密接に融合させ、スポーツを観光コンテンツと捉えて、「スポーツを観る」「スポーツをする」ことなどをきっかけとして、多くの方々が本県を訪れるよう、VISITはちのへをはじめ関係団体と連携しながら誘客促進を図っていきたくと考えています。

(知事)

実は今、新型コロナウイルスの影響で国際線がなくなって、本当に落胆しました。

今度、鱒ヶ沢でハーフパイプのオリンピックの代表選考会をやりますが、もともと鱒ヶ沢には、韓国や中国などアジアのオリンピック級選手が青森・ソウル線を利用してかなり来ていました。実際に鱒ヶ沢では、世界の富裕層も来ていて、お客さんをさらに呼んでくるという動きがあったのです。屋内スケート場ができ、今度は氷都八戸に世界のスケーターがやってくる、そういう期待をしていましたが、国際線が運休してしまいました。

やはり冬のスポーツは、アジアの中で最高の水準を持った人たちが来て、皆が観ることによってすそ野も広がっていきます。それはもちろんスピードスケートだけでなく、アイスホッケーやサッカーにもつながってきます。

新型コロナウイルスのワクチンができれば、また営業活動をして海外のお客さんを取り戻して、一流の選手が参加する大会が来てくれるという状況をつくっていきたくと思っています。

今日皆さんからお話を伺って、本当に良かったです。

菅原さんや坂下さんのような地域とのつながりを大事にするプレーヤーがいて、澤口さんのように良き指導者がいて、在家さんのように全体を分かる方がいて、自治体と連携して産業・経済にもつながっていくスポーツツーリズムの形をつくっていけたらすごくいいと思いました。

(三八地域県民局長)

「するスポーツ」「観るスポーツ」など、いろんなテーマがありますが、昨日、菅原さんの声かけでファンラーレの試合を県民局有志で応援しました。大体土日が試合ですので、青森市からでも青い森鉄道のワンデーパスを使って、試合を観てから駅前で一杯飲むなど、おいしい食べ物とスポーツを組み合わせた楽しみ方ができます。

また実際観て特に感じたのが、試合が始まる前に試合運営を支える地元の高校生の紹介など、

非常に地元に着した取組をされています。また選手の紹介についてもチームのことが好きになるような工夫をされていました。それはアイスホッケーも共通だと思います。

「するスポーツ」についても、私も参加している種差の朝ヨガなど、コロナ禍で、旅先で健康になるということ意識した新しい取組も始まっています。

県民局としてもこれから新しいアクティビティも含めて皆さんと一緒に勉強したいと考えていますので、今後ともよろしくお願ひします。

(知事)

皆さん、これからも力を合わせていきましょう。

